

# 新 生

令和四年十二月 十日印刷  
令和四年十二月二十日発行



東北新生園入所者自治会

新生第七十四巻 第四号

新 生

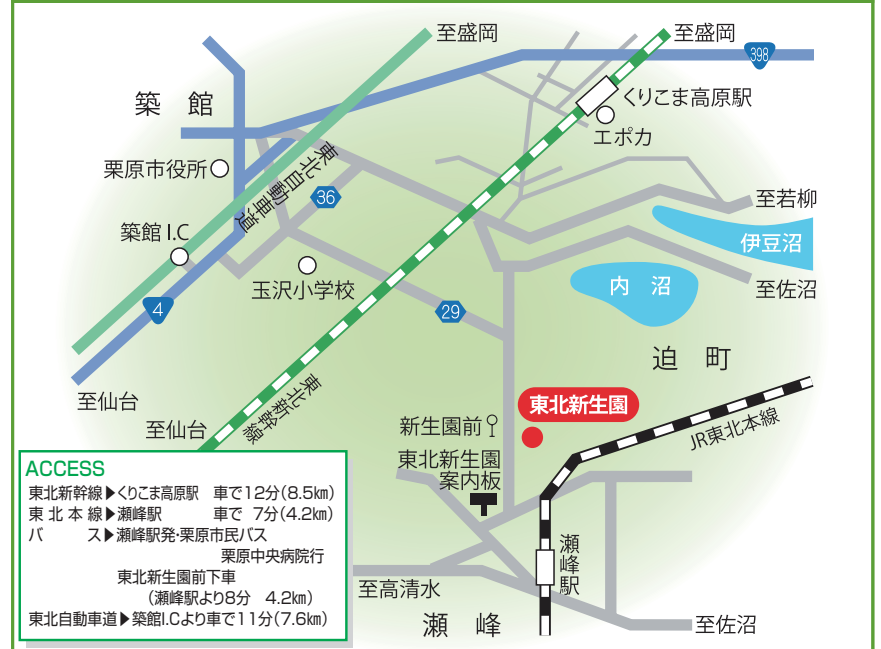
令和四年十二月 十日印刷  
令和四年十二月二十日発行

第七十四巻第四号

## 東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地		
土地面積	351,291㎡		
建物延面積	22,740㎡		
開 園	昭和14年10月27日		
医療法承認病床	185床		
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科		
現在入所者数	男9名 女25名 計34名		
職員定員数	136名（令和4年4月1日現在）		
園 長	医学博士	横 田	隆

## 東北新生園交通案内図



# セラピー犬とのふれあい



— 令和4年10月11日 —



## 園内日誌

令和四年 七月～九月

## 【謝寄贈図書欄】

令和四年 七月～九月 (敬称略)

※ 《七月》  
第二十二回夏祭り・花火大会

《八月》  
お盆行事 (抽選会)

《九月》  
七日 楓会発会七十六周年記念  
物故者慰霊祭  
※ 十六日 敬老会「敬老祝い品配布」  
※ 第二十二回寛仁親王妃杯女子  
コスモスゲートボール大会

※ 新型コロナウイルス感染防止  
のため、活動中止

多磨	東京都	多磨全生園
菊池野	熊本県	菊池恵楓園
愛生	岡山県	長島愛生園
青松	香川県	大島青松園
始良野	鹿児島県	星塚敬愛園
ハンセン病者が生きた美しき島	大島	
香川県	大島	青松園
東京都	国立ハンセン病資料館	
日本ハンセン病学会雑誌第九十一巻二号		

令和4年12月10日 印刷  
令和4年12月20日 発行

発行集刷 東北新生園楓会(自治会)  
編集印刷 楓会文化部  
川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)

発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十四巻第四号……………目次

表紙：「冬の使者・白鳥（朝靄に包まれる光の中で）」

…撮影 事務長 加藤 久 弥

定年退職を迎えて……………	看護師	高橋	由美	（2）
退職を迎えるにあたり……………	准看護師	櫻田	和恵	（4）
思い出……………	看護助手	千葉	治枝	（6）
思い出……………	看護助手	白鳥	真澄	（8）
随筆「八甲田ロープウェイの旅」……………	看護助手	斎藤	照雄	（9）

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者	佐々木	洋一	（11）
短歌……………	選者	皆川	二郎	（13）
俳句……………	選者	山田	桃晃	（15）
川柳……………	選者	栗石	子彦	（17）
第二水源地井戸工事について……………	会計班長	名生	和彦	（20）
思い出……………	看護助手	高橋	明美	（22）
思い出……………	看護助手	阿部	ゆき子	（23）
感謝……………	看護助手	佐竹	江凛	（25）
四コマ漫画「マスク」「花占い」……………	看護助手	太田	澄凛	（26）
園内日誌・謝寄贈図書……………				

## 定年退職を迎えて

看護師 高橋 由美

この度、令和五年三月三十一日を持ちまして、定年退職を迎える事となりました。新生園には平成三十一年四月よりお世話になり、ほんの四年間のお付き合いでした。前職場は一般病院で、「命を救う」「命を守る」という使命で看護という仕事をしてきました。こちらにお世話になってからは「生活を守る」「日常生活を送る上で必要な支援は何か」「この方にとって大切なことは何か」という事を常に考えて毎日を過ごすようになりました。この考え方の違いが身に付くまでにはしばしの日数を要し、周りの皆さんにも迷惑をおかけしたと思います。緊急入院の方が来る

まだ学生の頃、もう四十年程前です。ハンセン病の方が書かれた手記を読む機会がありました。父親が「世の中には、こんなに虐げられて生活しなくてはならない人達がいる事を、解ってもいい頃だな」と言って渡してくれたものでした。読んでいて胸が痛くなり、同じ人間なのになぜこのような扱いを受ける人達がいるのか、と怒りよりも悲しい気持ちが入り込んできたのを記憶しています。四年前に新生園にお世話になる事を決めた時に、その本を読んだ時の四十年前の感情がよみがえり、複雑な時代を送ってきた人達に対して自分は何か出来るのかと、かなり悩みましたが、来てみたら皆さんの明るさが眩しくてビックリしたことを覚えています。そして自分が引きずっていた負の感情が一瞬で吹き飛ばされたことを記憶しています。「囚われていたのは自分自身じゃないか」と一人で苦笑してしまいました。それからの四年間、時に

わけではないので時間は有効に使えらると思っ  
ていましたが、お一人お一人に決められた  
ルーティンがあり、それは時間も細かく決め  
られていて、命の時間と生活の時間、まった  
く違う意味を持つ時間の使い方にあたふたと  
翻弄されたりもしました。広大な敷地を入所  
者さんとゆつくり散歩して歩き、時に栗拾い、  
時にキノコの収穫とその贅沢な時間の使い方  
に「今は勤務時間中だよな…、これでいいの  
か？」と戸惑うこともありました。

新生園にお世話になり、皆さんのお話を伺  
わせて頂く機会がある時には、一生懸命聞か  
せて頂きました。皆さんが口を揃えたかのよ  
うに、「こんなところに連れて来られて、昔  
は辛かった。治れば帰れると言われてもう何  
十年、帰るところもない。でも住めば都、振  
り返ると辛さはあるけれど、ここに来て今は  
幸せだよ。」ということをおっしゃられてい  
ました。

辛く時に楽しく過ごさせていただき、看護師  
として違った分野の経験を積めたことが私の  
財産となりました。

入所者さんが、最後の時に「良かった、自  
分の人生悪くはなかった。」と思っていただ  
けるように、私の残された時間を寄り添い、  
ともに歩めるように使っていきたいと思っ  
ております。四年間ありがとうございました。



## 退職を迎えるにあたり

准看護師 櫻田 和恵

私が新生園を知るきっかけになったのは、社会の個人病院で働いている時、同僚から「今、新生園でサツキ祭しているから見に行かない？」と声を掛けて頂いたのがきっかけでした。その同僚は新田に住んでいたもので、そのような行事があることを知っていたのでしよう。サツキの盆栽を近くで拝見した時の感動は今でも思い出されます。入所者様方がどれくらい大切に端麗込めて育てたか、どれを観てもすごい、美しい。また入所者様から一鉢一鉢説明して下さった事や、秋には収穫祭にも鑑賞させて頂き、まさか、それから数十年後、自分自身の勤務地になるとは考えも

しなかった事も思い出されます。

私が入社したのは、平成十六年十月、新看護体制が導入することで看護師を増員。私が入った時は六名が入社。その中で、私一人が治療棟外科に配属となり、心配や不安で仕方なかった事を思い出されます。

治療棟で初めに困ったのは、順番待ちの入所者様の氏名を覚えるのが大変で、一番目の方と呼び掛けると、俺と手を上げるだけで、毎回「すみません、お名前を」と声掛け、顔と名前を覚えるのに一ヶ月もかかったしだいです。でも、他の科の治療棟の先輩方にも御指導をして頂き、見様見真似で入所者様にも傷の特徴、ガーゼの当て方など教えてもらいながら、日々過ごした事も忘れる事の出来ない一ページです。

治療棟は今と違い、他のセンターで入浴が無い日に外科処置、点眼等を行う場であり、また、入所者様から「外科の皮切りは三年か

かるんだ」となかなか胼胝する機会もないまま数ヶ月過ぎた頃に、入所者様の方から「俺の皮切ってみろ」と御指導して頂いた出来事も思い出の一つです。

平成十四年十月、入社約二十一年、長いよいうな短かったような…。あつという間に過ぎ去った気持ちです。こんな私がこの度、退職を迎えることになり、「ありがとうございます、退職した」の気持ちでいっぱいです。本当に長い間、ありがとうございます。



## 思い出

看護助手 千葉 治枝

平成五年九月十二日、病休代替として働かせて頂き早三十年余り。当時三十歳だった私も還暦です。月日の経つのはあっという間です。

最初の配置は、夫婦寮の高砂センターでした。不自由ながらお互いに支え合って、生活している姿を見て「夫婦とはこういうものなんだ」と思いました。働き始めて間もないある日、盲人の方に時計の電池交換を頼まれました。「出来るか」「わかるか」と聞かれ、あやふやな対応をしてしまいました。その盲人の方は「わがんねえのに、やんべくせなごど語んでねえ！」と怒鳴りました。私はどう

食堂で食べる方は五十名近くいたと思います。皆さん、時間になると一人で来ていました。ガラス越しに見られるので、本当に緊張しました。不安がっている私に先輩は「大丈夫、今までご飯食べさせられなかったって言われたこと無いから」と笑顔で言ってくれて、優しいなとその先輩が大好きになりました。

不自由者旅行・盲人会旅行・光のページェント・カラオケ大会・運動会・お楽しみ会など本当に楽しい思い出ばかりです。皆様と過ごした三十年間は、私にとって宝物です。

このコロナ禍ではありますが、どうぞ皆様お身体に気をつけてお過ごし下さい。お世話になりました。ありがとうございました。

して良いか分からずにいると、先輩に「盲人の方は、心の目でちゃんと見ているんだよ」と助言を頂きました。私にとって貴重な初体験でした。介護の事、入所者様の事をちゃんと学ばなければと思いました。

また、当時は各センター補食の数も多く、当直明けの時は、卵六〜七個を一度に焼くのです。かなり太い卵焼きを六、七人に切り分けます。目玉焼きもあり、中までちゃんと焼く人もいました。新生園のカレーライスは、とても美味しかったと評判です。当時はカレーの器も各々違いました。普通のカレー皿で食べる人、いつもの器で食べる人等様々でした。器に名前、グラム数、ルーのかけ方まで細かく書いた紙を貼り付けるのです。その盛り付けは当直者がすることになっていて、当直の時は朝から緊張していたものです。慣れない私は夕食の配食が出来るか不安でした。スタッフが二、三名位しかいなかったのです。

## 収穫祭 🍠🍡🍢🍣

11月8日～10日



## 思い出

看護助手 白鳥真澄

この度、令和五年三月三十一日をもちまして定年退職を迎えることとなりました。

平成二年四月二日に福祉室の賃金職員として採用されました。仕事内容は多種多彩なもので、草刈り・芝刈り・木の剪定・行事の準備片付けなど、冬が近くなれば一般寮の各部屋へストーブの取り付け、雪が降れば除雪など初めての事ばかりでした。その経験があつて、今では色々な場面で活かされていると思つています。

観桜会・運動会・カラオケ愛好会と職員の発表会・年二回の近隣友好ゲートボール大会・盆栽、菊、野菜の品評会・栃木県鹿沼市、山形県南陽市へのバス旅行等の行事がありま

した。当時入所者は三〇〇名程在籍されていたと記憶しています。どの行事も大勢の入所者の方々が参加されて盛り上がり 있었습니다。中でも鹿沼へのバス旅行では、入所者の方と職員で車中はいっぱいになり、鹿沼へ行く途中で買い物、鹿沼に着くと見学しながら大量の買い物をした後、皆で一緒に昼食、帰りのバスの中ではお酒が出てきて、入所者の方々と楽しくお酒を飲んだ事は今でも忘れることの出来ない思い出です。

平成二十七年四月、介護員として配属になりました。介護の仕事は初めてで、毎日が勉強の連続でした。微力ながら、入所者の方々の生活に関わる事が出来て良かったと思つています。新生園に就職して三十三年間、皆様には大変お世話になりました。定年退職する年を迎えられたのは入所者の皆様、職員の皆様のお陰であると思つています。どうか皆様お身体を大切にお過ごし下さい。長い間、本当にありがとうございます。

## 随筆

### 「八甲田ロープウェイの旅」

斎藤 照雄

私は八甲田のロープウェイ方面の旅に友から誘われ、築館インターから東北自動車道を一踏盛岡を通り花輪インターで降り、近くにあった食堂で昼食をとった。その後、発荷峠から見る秋田の十和田湖、休屋から見る青森の十和田湖共に見学し奥入瀬溪流に。そこには青森が生んだ歌人大町桂月と言う方が歌つた「この道や桂もみじや右左歩け奥入瀬三里半」この三里半には見るところが沢山あるから風情を楽しんで下さいと言う事でした。奥入瀬溪流を渡り終わると八甲田ロープウェイ

の登山道。その先に森がしばらく続きここを居眠り坂と言う。かつてのバスガイドが子守歌を歌ってしんぜますからお眠り下さい。優しい声が今でも耳底に。一方八甲田の噴火の折に出来たと言う地獄沼・底なし沼と言う二つの名前をもつ沼が右手前方に。左手は青森とど松。このとど松は坂ノ上田村麻呂と言う武将が蝦夷征伐の折に持ち帰ったと言う、その昔、北海道が蝦夷といった話でした。私達はその山中で大雨にみまわれた。果たしてロープウェイは大丈夫かと心配して坂を下ると、あれほど大雨を降らした雲がどっか吹っ飛び、すっかり晴れ渡っていた。「秋の空と山の天気は気ままなもんだ」と言つて、道の駅で切符を買いゴンドラに乗りスタートして、なにやら話しをしているうちに頂上に。そこから北の方向を見ると、レンガ色の建築物が秋の陽に映えていた。あれは松岡保養園

だろうとしばらく眺めた。下山し青森市の観光課で宿泊場を尋ねた。すると「お客さん今青森市は観光シーズンだから泊まるところは何処にも無いですよ。」と言われた。「何処かに宿泊場があるか」と尋ねたら、「浅虫の方はどうでしょうか?」と言われた。言われるまま行つて見ると、呼び込みの方が横一列になつて五、六人が呼び込んでいた。私達はその近くにいた方に交渉をもち「あれがあるか」とこれがあるか、シャワートイレはあるか」と尋ねたら、みんなあると答えてくれたのでフロントで手続きを済ませ、係の方に引かれるがまま二階に上がり東の広間に着いた。係の方の話が始まり「ここで食事を皆でして下さい。休む時夫婦の方はここで、独身の方は西で休んで下さい。」と言われ、夕食の準備も整い係の方が部屋を後にした。私達はビール

で乾杯し、夕食の楽しい一時を過ごした。やがて消灯の時間別れ別れになつて休んだ。次の朝五時に起床、六時に楽しい朝食が始まつた。その後、出発の準備をしたり忘れ物はないかと確認し下に降りお土産を買つた。そこで「色々お世話になりました。」と言つたら、主人と係の方が一列になつて「こちらこそお世話になりました。気を付けてお帰り下さい。またのお越しを」と言つた言葉に送られ、宿泊場を後にした。

## 新生文芸

### 詩

佐々木 洋 一選

#### ◇ 入 選 ◇

《居酒屋の門をくぐつて》

斎藤 照雄

何が原因なのか  
心のしこりを訴えた  
そのしこりを  
ほぐして貰うべく  
居酒屋の門を叩いた  
そこには乙女がいた

「いらっしやいませ」と言つて  
飲み物を用意してくれた  
そしてふたりで飲み始める  
私の一杯目が底をつくと  
二杯目を注ぐ

和服に身を包み  
甘い香りを漂わせ  
私に寄り添い  
もてなしてくれた  
そのおかげで  
あんな頑なな  
心のしこりが  
何処かへ吹っ飛んでしまった  
ことのほか  
私は喜んで  
乙女に何度も礼をして  
お代を払い



「氣を付けてお帰りなさい」  
と言う言葉に送られ  
喜びを懐にし  
居酒屋の門を後にした

【選評】

《居酒屋の門をくぐって》

斎藤 照雄

こころのしこりも和服に身を包んだ乙女の酒の  
もてなしにあつては、一溜りも無い。雲散霧消で  
す。

四連目の「ことのほか／私は喜んで」という客  
観的なとらえ方は、すでに夢心地のようでおもし  
ろい。何げない言葉の奥に、斎藤さんのユーモア  
のある人間性が潜んでいます。



短歌

皆川 二郎 選

◇ 入 選 ◇

柏木 梅

「青春は密」と言いしが我が家では高二  
の子との沈黙多し

【選評】

今年の全国高等学校野球大会は、  
百年來の夢が叶って育英高校が待  
望の優勝を成し遂げ、白河の関を  
越えて大きな感動をもたらした。  
その時の優勝監督の言葉の一つに  
「青春は密」という言葉があり、こ  
れまた感動を呼んだが、我が家で

昨日が父の命日と思い出し親不孝なるを  
詫びて手合わす  
小林 喫 茶

【選評】

昨日が父の命日であったのに、  
そのことを忘れていて今思い出し、  
親不孝であることを詫びながら手  
を合わせている。作者の素直な表  
白に共感させられるものがある。  
亡き父親も必ず許して下さるもの  
と思います。

柏木 梅

とっぷりと暮れたる夕べ稲わらと缶  
コーヒの香り立ち来ぬ

【選評】

秋のとっぷりと暮れた夕べに、  
稲わらと缶コーヒーの匂いが漂っ  
てきたという作者の実感と感性に、  
季節感が感じられ、穏やかな秋の  
一日が終わって行く様子が心地良  
く感じられる一首である。

小林 喫茶

闘魂が燃えてた昭和懐かしむ友と試した  
コプラツイスト

◇佳作◇

菊 水  
家事仕事腰重すぎて進まずに私のやる  
気をひそかに削げり

柏木 梅

石あけび青さ残して実の割れて枝に絡  
まり指の届かず  
雑草に隠れきれざるマムシグサ艶やか  
な実に不安募りく



俳句

山田桃晃選



◇入選◇

斎藤 照雄

利府街道梨即売所に人の山

【選評】

思い出のある利府街道、利府と  
言うとき長十郎梨が本場で懐かしい。  
水分量と甘さのバランスが即売所  
に人の山、梨そのものの山の様に  
見える、とはあれ利府街道が夢を  
見させてくれる一句。

今野 モトイ  
虫の音の途切れ途切れの静けさよ

【選評】

なんとなく寂しさが虫の音に引  
かされるひと時、虫の音の強弱の  
あひを途切れ途切れと聞く心よき  
しも五字の静けさよが一変して明  
るく楽しい喜びとなった虫時雨で  
もあろう。

斎藤 照雄

この山はキノコの宝庫他人の山

【選評】

キノコの宝庫と言いつつた所が  
美味である。作者の山ではないが、  
心の引き締まる喜びを感じ取れる。  
他人の山と言いなながら山の神のな  
さるワザが充分満たされ芯の優し  
さがある。

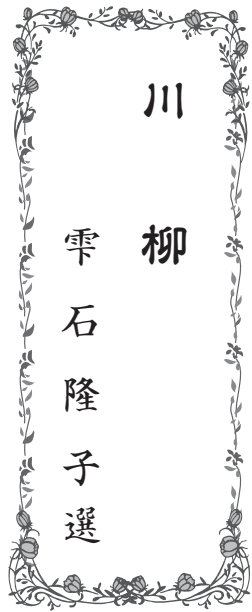
◇ 佳 作 ◇

今野 モトイ

花は落ち心に残る椿かな  
桜散り赤いじゅうたん見つめてる  
心眼に光る虫の音散歩道  
稲穂垂れ祝いの席や夢を見る  
鉢植えの夫の作りし菊香る

斎藤 照雄

夜を徹し田園地帯蛙鳴く  
ワークらを見送る正門菊香る  
お辞儀する稲穂に農夫目を細め  
畦道を行けどイナゴの影も無し  
農薬の犠牲となったかイナゴらも



◇ 入 選 ◇

《天位》 斎藤 照雄

弱音吐く私に影の鞭唸り

【選 評】

ハ氏病に人生を変えられた作者。今日の勝利までのプロセスが上五の「弱音吐く」に込められている。我が身を鞭打った人生を悲しくも、並々ならぬ強さでもあろう。

《地位》 小林 喫茶

キヤタピラが豊穡の秋蹂躪す

【選 評】

二月のウクライナ侵攻から、八ヶ月余も続く戦闘。ウクライナの国から、小麦もトウモロコシなどの輸出も滞っている。ロシアの戦車が農地を駆けまわり、先の見えない戦である。

《人位》 千 歩

柿の実が枝をしならせ笑いあう

【選 評】

柿の収穫期だが、柿挽ぎに枝をしならせる景色が見えてくる。収穫を喜ぶ笑いが、しなる柿にも移っていく。実りの秋の喜びが一句に漂います。

# 慰 霊 祭

— 令和4年9月7日 —



## ◇ 佳 作 ◇

待ちわびるコロナ面会ガラス窓  
遠い日のスマホ眺めて子を思い  
千 歩

半袖に秋風しみる十月か  
大 平 尚 拓

アンケート知らなかったで統一し  
小 林 喫 茶

無花果煮鍋に浮かびし祖母の顔  
腰痛も里芋掘りでは忘れさり  
長 沼 蓮 花

おわします優しい母が瞳裏に  
あの頃は俺にもあった意地と夢  
八氏に勝ちこの手に踊る無菌症  
斎 藤 照 雄



## 第二水源地井戸工事について

会計班長 名生和彦

当園の飲料水は、一〇〇%井戸水を使用しており第一水源地・第二水源地の二箇所から交互運転により供給されています。一日平均水道使用量は約一七〇トンになりますが、第二水源地の取水量の低下やポンプ能力の低下が心配されていたところです。

「新生誌」第七十三巻第二号の誌上にて、当園の第一水源地で井戸を新たに新設したお話しをさせていただきましたが、水源の供給設備に関連してこの度もう一方の「第二水源地」井戸についても、稼働を始めてから相当の期間が経過していたことから、井戸水を引き上げるポンプの更新などの整備予算配布を

いただき工事着手することとなりました。工事については、昨年九月に施工業者が決定し、交換するポンプなどを手配する準備期間を経てからの本格着工となりました。

十一月上旬、井戸孔内の調査から業務が始まりましたが、交換するポンプの引き上げ作業に障害が発生し、このまま井戸を引き続き利用することが難しいとの施工業者の報告を受け、厚労本省など関係官署と調整し、予定を変更して第一水源地と同様に新たに井戸を掘り直すことになりました。

六月初旬に前回と同様、今まで使用した井戸を埋めるために瀬峰八幡神社より宮司さんをお迎えし、園関係者・工事関係者が参列し「埋井奉生忌」を行いました。

その後はお祓いの効果と入所者の皆さん・職員の皆さん・工事関係者の皆さんのご協力により事故もなく順調に工事作業が進行し、八月下旬に新しい井戸の工事は終了すること

ができました。

十月十四日には全ての役所手続きが終了し、第二水源地の新しい井戸から供給された「水」が園内の皆さんにはご利用いただけることとなりました。工事開始から使用開始まで一年以上要しましたが、五十項目以上の水

質検査に合格した安心・安全なおいしい飲料水です。

今後も園内の皆さんが利用される水の安定した供給に努めて参りますのでどうぞよろしくお願いたします。



第2水源地



貯水槽



制御盤・濾過室

## 思い出

看護助手 高橋 明美

この度、令和五年三月三十一日をもちまして定年退職を迎えることとなりました。平成三年四月から看護助手としてお世話になり、三十一年が過ぎました。

当初は、桜の開花時期で、桜通りや睦が池の周囲等に沢山の桜の木がありました。開花期間は短いので、うっかりしていると「満開の桜」は見逃してしまいましたが、場所によっては蕾の状態から満開まで、毎日観賞できました。また、手入れの行き届いた庭木や盆栽、菊の花や草花など、広大な敷地に自然豊かな美しい景色に感動したのを記憶しています。現在も入所者様と散歩の機会に、四季折々に癒しと豊かさを与えてくれています。

当時の皆様も若く、元気な方々が多く、年中沢山の行事がありました。入所者・職員の交流でゲートボール大会やカラオケ大会は季節毎に開催されていきました。カラオケ大会では、入所者の方々のお化粧や着付けの手伝いをしながら、皆様の歌声や衣装の華やかさに驚きました。私が舞台に立つ際に、持参したスーツが地味すぎるからと、ある入所者様がチャイナドレスを貸してくれました。緊張と恥ずかしさで記憶が飛んでしまいましたが、応援していただいた声が嬉しく、懐かしい思い出です。

また、晴天の下開催された運動会では、入所者・職員の混成チームで一致団結し、競技に参加しました。皆様と共に競ったボール送りや血圧測定等、活気に溢れていて楽しかった思い出です。

最後に、皆様が健康で充実した日々を送られますよう祈念しております。大変お世話になりました。ありがとうございました。

## 思い出

看護助手 阿部 ゆき子

平成三年九月に美容師として採用され、令和五年三月三十一日で定年退職を迎えます。

東北新生園という名称も場所も知らず過ごしていた私に、「前任者から「辞めるから代わりに仕事をしてみないか」と声をかけて頂いた事がきっかけでした。面接に来た時には余りの広大な敷地に驚き、誰にも会っていない内から緊張していたのを覚えています。前任者から予約表を引き継ぎ、時間になると入所者さんが来るのですが、なかなか名前と顔が一致せず、理髪の先輩方に教えて頂きながら少しずつ覚える事が出来ました。慣れてきた頃、カラオケ大会のお手伝いをして欲しいと

依頼があり、春・秋のカラオケ大会には、裏方として私も参加させて頂きました。沢山の入所者さんや職員さんと交流ができ、とても楽しかった思い出になっています。

令和三年四月より、現在の第一メープルケアセンター三階、治療棟の看護助手として新たな仕事に就く事になり、美容室に来て下さっていた方々にはご迷惑をおかけ致しました。すみません。何も知らないゼロからの始まりで、入所者さん達にも職員の方々にも迷惑をかけてばかりの数ヶ月でした。「とにかく何も分からないんだから何でも聞こう!!」そう自分に言い聞かせ、何度も先輩方に教えて頂きました。家に帰ってからは一日を振り返りメモに残す。と言う繰り返しを続けました。ある先輩に「三ヶ月たてば覚えられるから大丈夫、大丈夫」と励まされ、自分は本当に三ヶ月で覚える事が出来るのかと悩みました。美容師をしていた事で入所者さん達には

名前も顔も知られているので「あんだ、ここに来てくれたのが、わかる人が来てくれるとありがたい」と言葉をかけて下さった方。「大丈夫、大丈夫。頑張れ。」「頑張ってるな、だいぶ仕事覚えてきたな。」と声をかけて下さる方。入所者さんの笑顔や言葉に何度も励まされ、仕事が出来るようになりました。ありがとうございます。

最後になりますが、入所者の皆様、職員の皆様、三十一年六ヶ月お世話になりました。沢山の思い出を頂き感謝しております。皆様お身体を大切に一日一日を元氣にお過ごし下さい。本当にありがとうございます。



## 感謝

看護助手 佐竹澄江

東北新生園にお世話になったのは、四年前給食の仕事に始まり、介護員として働かせていただき今日に至ります。

東北新生園のことは、実家が近いということもあり、子供の頃から知っていて何度も来園し、色々な行事を観て来たことなど思い出されます。

また、入所者の方が実家の方の苗取り、田植えなどの手伝いに来ていただいたことなど思うと、新生園とは縁が深かったなあと思います。

新生園で働き始めた頃は、なかなか仕事に

慣れず度々落ち込むこともありましたが、入所者の方や先輩スタッフの方々の励ましで、今日まで働くことが出来ました。本当に、みなさんのおかげだと感謝しかありません。

ある入所者の方に、言われたことがあります。「人に良く、優しくするといつか必ず自分に返ってくるんだよ。」と教えられました。この教えを守り、今後も人生を歩んでいきたいと思います。大変お世話になりました。



# 四コマまんが

作・太田凜

